

特別展「比田井南谷～線の芸術～」 ご来館者の感想

○9月27日～10月2日分

案内チラシを見て、講演会を聴講し、図録を入手し、作品を見ました。館内でビデオを見て、比田井南谷～線の芸術～。ビデオでは「線の表情」という言葉が印象的でした。まったく知らなかった書家「南谷」の作品を道風記念館特別展をとおして知る機会になったことを感謝します。ありがとうございました。

知らなかった作家。現代美術が好きで、チラシを見て行かねばと思った。すばらしい。ありがとうございます。

素晴らしい回顧展でした。

小さな作品でも奥行きが広く見えるものが多く、線の芸術を間近に体感できた。

習字を習っています。形ばかりに気をとられていたが、線の大切さを感じました。

初めて知りました。書もアートだと初めて知りました。

書とは何か。と考えさせられる作品で好きな作品は、筆使いがおもしろい。

前衛芸術の中に臨書を極めた筋が見えてすごいと思った。

にじんだ線、かすれた線、濃い線、淡い線、線の直線、曲線、線の強弱、線の太い細い、線の長い短い、墨色の変化、線を描く時の速い遅いのスピードの変化、線筆の変化、以上のことが参考になりました。

書というより墨と筆の絵画ですね。見て何か感じるものがあります。自分の家に飾ってみたい作品を選びました。

図録で見ていた作品を間近に見ることができてよかった。

ビデオ・作品とも興味深く見せていただいた。

普段、書というものにふれる機会はないが、非常に興味深く、楽しかった。

卒論で前衛書について研究している身として、今回の展示がもたらす作品の偉大さをたっぷり味わえました。生で見ると紙面よりはるかに南谷の迫力が伝わり、やはり来てよかったという気持ちでいっぱいです。

とても感銘を受けました。

臨書がすばらしいです。温もりを感じます。ガラスケースの中の「電のヴァリエーション」を書いた頃の臨書、版画にも感動しました。

大胆なすばらしい絵でした。

息づかいが聞こえる。流れがすごい。

書道を学んでいるのでとても勉強になりました。前衛書といっても書道の本質的な部分は変わらず、表現の変化によって生み出された芸術だと感じました。

友達の付き添いで来たのですが、いろんな書体を見ることができてとても楽しかった。特に NO. 31 の無題がとても独特で、人のような形に見えて、ずっと眺めてしまうほどでした。遠くからきた甲斐があったなと充実した時間を過ごすことができました。

「不思議な墨」「鳥の子紙」「大筆」の作品は、立体的に感じられて見ごたえがある。

筆使いのすばらしさ

南谷のような作家を探していたので、大変興味深く観覧することができました。

いちばんイイネ！と思ったのは「オリジナルフォト」かも……。イチハラヒロコに通じる。

墨は生、線は力を表現しているのかなと素人目に思います。

筆の路が残り、透明なきれいな作品だと思いました。

大変おもしろく興味深かったです。